

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION 30^{th.} ANNIVERSARY

共に夢を語り合い自信を持って行動しよう

9



龍踊り

社団法人 **長崎青年協会**

発行●(社)長崎青年協会 長崎市五島町2-14 長崎印刷ビル3階 会長 和田正信 編集●広報委員会 広報委員長 野島徹也

会長あいさつ

会長 和田 正信

今年度スローガン 「共に夢を語り合い自信を持って行動しよう」



会員の皆様、青少年育成事業「サマーキャンプ '98」そして、全体研修とお疲れ様でした。

特に、青少年育成事業では、これまでで最高の約180名の子供達の参加を頂き、会員の皆様にはご苦勞、ご心配をおかけ致しましたが、予定通り無事終了する事が出来ました。これも、ひとえに担当委員会をはじめ、会員一人一人が心をつにし、一致団結して行動した結果だと思えます。又、参加して下さった子供達には、いい思い出としてこれからの、学習や生活の中で役に立ててもらいたいと思えます。

さて、9月13日には、第6回ふうせんバレーボールふれあいINながさきが、長崎県立総合体育館メインアリーナで行われます。同大会は、協会創立25周年の記念事業として障害者と健常者が共に助け合いながら行うスポーツとして企画・運営を行い、昨年迄、協会と長崎ふうせんバレーボール振興委員会の活動として行ってきました。しかし、今年度からは、長崎ふうせんバレーボール振興委員会が確立を成し遂げ全体的に企画運営を行っています。でも、協会として、同大会に参加協力することは、今迄と変わりなく、いや今迄以上に続けて行きたいと思えますので、会員の皆様ボランティアとして是非ご協力下さいませよう宜しくお願い致します。(9月12日は、設営の為、多くの助けが必要となりますので、是非協力下さい。)

夏の終わりのハーモニー

平成10年度 全体研修開催



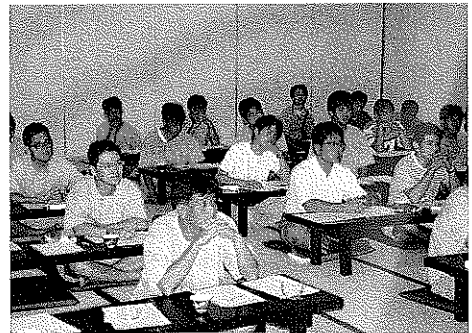
講演される武田氏

去る8月29日(土)～8月30日(日)「イオス」に於いて毎年恒例の全体研修が経営幹部訓練の武田竜吉氏を講師としてお招きして開催された。

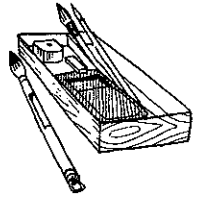
やや夏場の事業に疲れ気味か若干参加の方は少な目でしたが、充実した内容の研修が行なわれたのではないかと思います。特に講演では「あいさつ」というテーマから、人間関係の奥の深さや、また、どう生きていくべきなのか等、我々青年協会員としてまた、一社会人として色々と考えさせられた内容だった。

<そんな男のひとりごと>

やはり、泊まりがけの研修はおもしろい。人それぞれの個性がはっきりと見えてくる。さっきまで元気だったのに、ちょっと目をはなすと、すやすやと毛布を着て寝ている者。夜通し起きて、しゃべりまくったり、ゲームに興じる者。何やら物想いにふける者。深夜イオス館内を徘徊する者。途中で消える者。普段と違った触れ合いができるのは全体研修ならではの事ではないかと思う。今後も継続して欲しい。最後に「いびき」「寝言」までは許せるが「歯ぎしり」は止めてくれ。(眠れなかった男より)



ゆいごんしょ
有意言書 (卒業するにあたって)



来年3月で卒業予定の皆様これだけは会員に言い残したいという思いをおおいに書き残してもらおうという企画。

H2.7入会 地域活性委員会 岡田 康信

私が青年協会に入会したきっかけは同級生からのさそいでありました。その時の話は色々な職業の人達がいて、飲み会が中心だから、おもしろいぞと言う事でした。でも入会して、現実には事業が多く、委員会も夜遅くまであって、なんて大変なんだと思っておりました。それが、35才を過ぎるころから何となく、協会の活動に参加しないものたりない様になっていたのが、自分には不思議です。

そんな私からみなさんに言い残したい事は、1つめに、仕事と家庭あつての協会活動である。でも、少し無理をして協会活動に参加すると、自己満足ではあるが、やったと思う時がある。だから、みなさんも積極的に参加してみてもはどうでしょうか！

2つめに、事業には、人の目につく部分と裏方の部分がある。この事がわかって協会活動を行なうと、もっともっと事業が楽しいし、青年協会って、いいなあと思える。

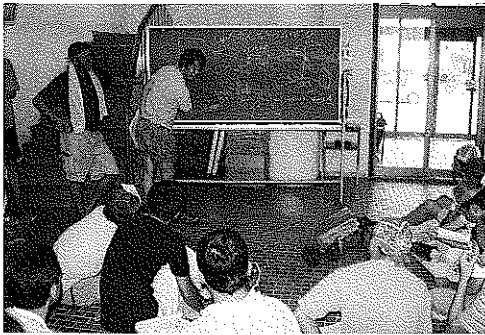
最後に、協会活動は、だれかのために参加するのではなく、自分自身のために参加してほしい。そうすれば、人を好きになれるし、青年協会にも思い入れが生まれると思います。

「ちょっと聞いて良かですか？」

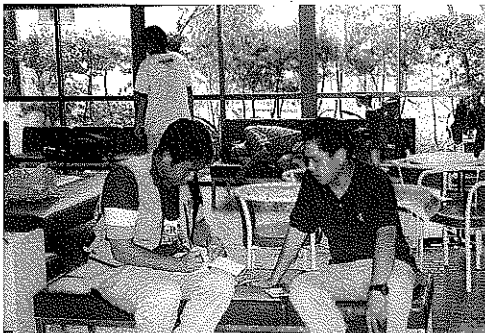
8月の全体研修に出席した会員43名に聞きました。(有効回答33名)

- Q1. 残暑厳しい日が続きますが、あなたは1日に何時間ぐらいクーラーの中で生活していますか？
- ・0時間 1人 ・2～4時間 5人 ・5～7時間 6人 ・10～12時間 12人
 - ・13～15時間 4人 ・16時間以上 7人 平均 10.8時間
- Q2. もうすぐ敬老の日がやって来ますが、あなたは何歳まで生きられると思いますか？
- ・30代 1人 ・40代 2人 ・50代 5人 ・60代 13人
 - ・70代 4人 ・80代 4人 ・90代 1人 ・100代 2人
- Q3. Windows98が発売になりましたがあなたはパソコンを操作できますか？
- ・出来る(ゲーム等) 20人 ・全く出来ない 12人
- 出来ないと答えた人だけお答えください。
- ・操作できればいいと思う 12人 ・操作できなくてもいい 1人
- 又、あなたはパソコンを持っていますか？
- ・個人所有 11人 ・会社所有 17人 ・持っていない 7人
 - ・要らない 0人 ・購入したいと思っている 1人
- Q4. 事務局にある「稲佐山のジオラマ(模型)」の持つ意味合いを知っていますか？
- ・知っている 23人 ・なんとなく知っている 4人
 - ・知らない 5人 ・見たこと無い 1人
- Q5. 今年度も残すところあと半期となりましたが、あなたは、この上半期満足の出来る協会活動が出来ましたか？
- ・満足している 7人 ・ほぼ満足している 15人 ・不満足 10人
 - ・その他(今からやる一)
- Q6. 会員に投げかけたい質問又は言いたいことがあればお書きください。
- ・今年30周年です。 ・個人も大切ですが、まずは全体を考えよう。
 - ・NYAをもっとスリムにしよう。 ・対外事業が多すぎるとは思いませんか？
 - ・家族と夏休みをちゃんと過ごせましたか？ ・足元を固めて。

元気っ子集れ！サマーキャンプ'98



ワイの説明いっちゃんわからん



取材を受ける前田委員長

一方裏方さんは・・・

まず企画の段階で心配されていたのは夕食、朝食の準備、一口に200人分の食事と言っても小さな小学校の一年分だ(40人×5クラス)、なんせ分量が多いので器具はたくさん要るし時間がかかる。食事スタッフは朝から夕食準備に取りかった。ここで一つ理事会で面白いやり取りがあった。タイムスケジュールをチェックしていた食事担当大石委員長が担当委員会野田副委員長に質問した「打ち間違いとは思いますが朝食準備がAM2:00となっています・・・」担当「間違いではありません・・・そのぐらいから準備にかからないと・・・間に合わないのでは？」大石委員長「はっはっはっ・・・そうですか・・・わかりました・・・いつぬっとや・・・ブツブツ」食事担当は2日間給食のおじさんと化し「他では何をやっているのか全然わからなかった」といっていた。その中に一生懸命食事の準備をして



ボランティアで参加してくれた松崎姉妹

8月22日～23日に行われた元気っ子集れ！サマーキャンプ'98は200名の子供達を伊王島に連れて行き一泊させる、まあいわゆる一つの林間学校のようなものだ。

最高の天候の中飛帆で長崎を出航、海の上を翔ること50分で伊王島に到着。伊王島の子供達や小学校の校長先生が出迎えてくれた。入村式のあと班に分かれて自己紹介、さっきまで元気だった子供達も初めて会う友達の前で緊張の面持ちだ。昼食の後、鳥民大清掃に参加、オリエンテーリングが始まる頃には子供達もだいぶ打ち解けていた。このオリエンテーリング、島を半周するのだが太陽が一番高い時間に行われ熱さでうだりながら、熱か！きつか！、まだあつと？泳ぎたか！、と文句を言いながらも残り少ない麦茶をみんなで分け合い飲み又次のポイントへと向かっていた。がんばれ！その後は海水浴、夕食、天体観望待ってるぞ！さすがに疲れたのか夜は良く寝ていたようだ。



キャンプだよ全員集合



飛帆で大航海

れていたボランティアスタッフの松崎姉妹から感想が届いているので紹介しよう。

サマーキャンプ感想文

今回ボランティアスタッフとして参加させていただきましたが、スタッフの皆様には終始いろいろとお気遣いいただき感謝の念でいっぱいです。

ボランティアは初めてではありませんが、作業のハードさに正直少々驚き、慣れないせいか長崎に戻った時は



チョコキのまけ?

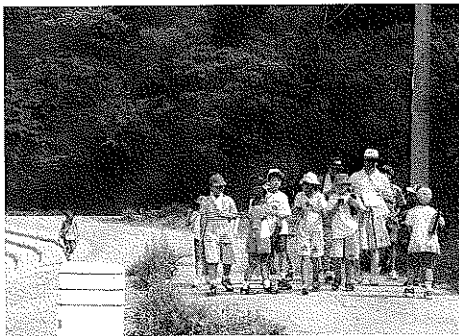


恒例のデッキ清掃



船酔いしとらんか?

あらためて感心してしまう。陣頭指揮にたった前田委員長は勿論担当委員会及びスタッフの皆さん2~3日疲れが取れなかったのではないのでしょうか?お疲れ様でした。やっぱりよその子供を預かっとは大変ばい。最後だが前田委員長がこんなことをチラッと saying いた。「ボランティアだからと言って無理に場所を貸してくれなどと言っはいけない、相手方との話し合いで決めていかなくては・・・」と、僕らボランティアの意味は良くわかっていはずだが心の何故かに多少のおごりがあるのかもしれない・・・これで又一っ心新たに学ぶことが出来た。



まだまだ元気

2泊くらいしたのではないと思う程疲れ切っていました。

かえってスタッフの方の足を引っ張ることとなってしまい、大変申し訳なく思っておりますが、私達姉妹にとっても良い経験となった2日間でした。

機会があれば是非参加させていただきたいと思っております。スタッフの皆様のこれからのご活躍を心よりお祈り申し上げます。有難うございました。

松崎 友理子(姉)

8月22日、23日の2日間はほとんどずっと厨房内にいました。約200人分のお米をといたり、真っ黒な鍋のすすを洗い落としたりという仕事が終わる頃には手が痛くて仕方ありませんでした。

2日間ずっと厨房内にいたので子供達と触れ合う機会が少なく、残念でしたがとても良い経験ができたと思います。

松崎 麻智子(妹)

今回のサマーキャンプ、今までの経験を生かしながらとはいえ200人もの人数をこなしてしまう青年協会、



オリエンテーリングで山道を行く



親父も子供も海ではしゃぐの図



島民大清掃に参加

オイにも

長崎青年協会30周年

30周年担当理事 田川俊幸

昭和44年、街の映画館では、トラさんこと渥美清氏の「男はつらいよ-第1作-」が封切られ、ラジオからは「長崎は今日も雨だった」の大ヒット曲が流れる。テレビは「オー、モーレツ」のパンツ丸出しCMを映し、新発売の「セブンスター」を吸いながらこの年連載開始のコミック「ゴルゴ13」を読んでいた時代。また海外、いや空の外では、「アポロ11号」が月面着陸に成功する快挙が宇宙中継で各家庭に映し出された、まさに進歩と自由の頃。しかし、その反面、日本中は、大学紛争の真っ只中に在った。「自由」を勝ち取るため命懸けで戦う当時の学生たちの姿に少なからず共感を受けたのだろうか。情報化社会幕開けの時代、当時「銅座の飲み屋」でくすぶっていた若者たちを刺激する酒の肴は幾らでもあった。そうして長崎青年協会は産声を上げた。

それ以来協会は、日進月歩とまでは行かないが、牛歩の如く沢山の若者の情熱によって少しずつ前進し、今年で30周年を迎える。当然の事ながら創設期の協会員と今の現役会員とは、親子程の年齢差が生じ（現に2世会員も誕生し）、時代背景と共に個々人々の価値観も大きく様変わりした。しかし「長崎青年協会憲章」に則った協会魂だけは、現在に受け継ぎ21世紀へ引き継いでいかなければならない。その時代に応じた協会らしさを常に心掛け、大胆奇抜な発想で今後も事業に取り組んで、少しでも地域社会に貢献できれば協会の存在価値はある。自己満足で結構。仲間と夢を語り事後にうまいビールが飲めれば、それでいい。今後も感動を求め感動を与える長崎青年協会であってほしい。

ハロー！ベイベイー！！

・荒内賢治君、8月19日長男誕生おめでとう名前は宏君です。

詩上法人長崎川柳協会（題：つま）

今回は総務例会委員会の皆さんです。

星ながめ ギターつまびき 愛の唄
(キザ〜っ!!)

いい女 独り静かに 摘み食い
(あんたが食いよっ?)

つまさきが すりきれるまで 外廻り
(普通はかかとやろ)

いまかえり 鬼よりこわい 僕の妻
(早よ帰れよ!!)

妻の顔 十年たったら 鬼の顔
(20年後は何になる)

おねーちゃん くだいてみたら 人の妻
(協会の妻だけはやめましょう)

つまみ喰い やせたい気持ち 遠い日々
(くんちにはまってやせましょう)

言わせろ!!

目指せ 満点 委員会

役員会の巻

出席者：和田、吉田、西崎、石田、西口、地島、田川、岩満、下釜、城谷 10/12

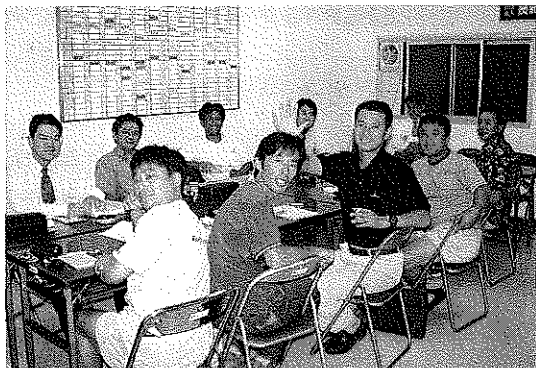
さすが役員さん、83.3%

進行は、会長あいさつからはじまり理事会に似たようなかたちで行われ、新人研修のありかた、30周年協賛金、CD-ROM、などについて、活発な意見が出ていた。率直な印象は、けっこう思いついたことをランダムに討論していたということである。

当初取材拒否との話を聞いていただけにかなり記事にはいけない話があるのかと思って行ったらなんのことはなかった。もっと、OPENにすべきである。

ところで、理事会後の二次懇親会（飲み会）でこそ重要な決定が行われていたという話を昔聞いたことがある。役員会は、その延長線上に生まれたものではなからうか？ 今回取材したのは最初事務局内ということもあって終始おかない話であったが、二次会（お酒の席）では、皆本音で語り合い前記のことを裏付けているようだった。

そもそも役員会というものは、定款・諸規則など正式に決められた会合ではないが、手帳や行事予定表等々書いてある重要な意志決定機関であるようにとらえられがちである。私もそう思っていた。しかし、ある役員から「誤解しないでほしいことがある」と言われた。それは、役員会というものはあくまでも理事会の補佐的役割を持つ任意の会合であって、協会の最高決定機関は理事会であり、そこに提出する議案は、会員それぞれが配属されている委員会のなかで討議した結果生まれたものであることを！



同好会案内

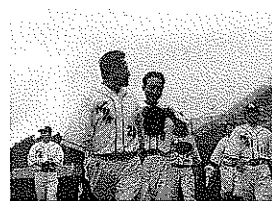
▶野球同好会 市民早朝野球速報

8月 日 柿泊球場

チーム名	1	2	3	4	5	T
長崎青年協会	0	0	0	5	1	6
楽歩	1	0	2	7	×	10

(五回時間切れ)

4回表に
逆転もその
裏に再逆転
され最終回
一点追加するもあと一本がどうしても出ず惜しくも敗退。



▶総務例会よりお知らせ

同好会規約にのっとり次の同好会が登録された。

・野球同好会 ・テニス同好会 ・将棋同好会 ・パソコン同好会 ・麻雀同好会

以上5つの同好会。

4月当初はいろいろあった同好会が五つになってしまおた。他の同好会はどがんとね。まだまだ同好会の登録、又は入会お待ちしておりますのでどしどし申し込んでください。詳しくは総務例会 峰まで。

長崎青年協会の知ってるつもり

今回はおくんち事業がいつから、なぜ始まったかそしてその後の流れも含めて書きたいと思う。当時の長崎青年協会(会長 井川憲太郎OB)は、今でも当てはまる事だが任意団体であり、上部団体も関連団体も無く、会員各自の自由な発想が発揮できる団体ということだ。その自由性には実行力の有る会員の特性を発揮できる良い点と、一貫した活動理念が伴わないというマイナス面を持っていた。その年の基本的活動方針は大きく分けると二つの柱で構成される。それは、設立当初より続いている文化財清掃(これは長崎の歴史的遺産である先駆者の墓や記念碑を清掃し市民や観光客に再認識してもらう為)と家族などに恵まれない青少年及び老人へのボランティアである。しかしそれに飽き足らず、まだまだ多年度にわたる地域社会発展の継続事業、及びその時期に即したタイムリーな事業を模索していた年でもあった。そこで長崎の大イベントであるおくんちを絡めて長崎市民と密着した大きな事業が出来ないものかと言うことで、昔あった懐かしい夜店やお化け屋敷やサーカスなどを、今の子供たちにも味わわせる為に「みんなで盛り上げよう長崎くんち」をスローガンに1981年から始まった。この年は市の協力を得てインド魔術団を招き二日間に渡ってイベントを行い5,000人とも6,000人とも言われる集客を果たした。もちろんその中には招待した1,500人の市内のお年寄りや福祉施設の子供たちの顔もあった。会員達は会場設営、警備、案内、ジュース販売、等を行い皆で燃え尽きたあとは今でも行われているサウナでのお疲れさん会で労をねぎらった。その後7.23長崎大水害などあり、1984年(会長 太田勝良OB)容も名前も変え「くんち共和国」として蘇った。場所は恵美須町にある瓊の浦公園で出店を試み当時のアイドル松本伊代や竹本孝之(長崎出身)のステージイベント又龍踊り、川船、オランダ万才を招いた。1985年(会長 吉野信義OB)から現在の江戸町公園に移りお化け屋敷が始まったのもこの年だ、その後お化け屋敷は何年か続いたが今では数年に一度になっている。又ネーミングも「くんち共和国」「くんち広場」「おくんちランド」「おくんちパーク」と年度毎に変わっていったが1989年から「おくんち広場」で定着している。食品ブース、ゲームブース共に会員の手作りでも内容的にもこの頃からほとんどのブースが定番化されている。1987年(会長 森山 茂OB)から6日の日を前夜祭として施設の子供たちを招待するようになった。1993年(会長 森 保博OB)にはその頃長崎で産声を上げて間もなかったふうせんバレーボール振興会の発展の為にガレージセールのブースを設け協賛金集めのお手伝いをした。ここで過去にあったが消えていったゲームや食品の数々を紹介しよう(年度によっては復活している物も有るが)、まずはインド魔術団のような興行的なもの、お化け屋敷、キリンプール、ガレージセール、カード合わせ、蹄鉄投げ、ダーツ、サッカー、パットゴルフ、フリースロー、スピードガン、テレビの泉、ドラびよん、どれもこれも思考を凝らしたゲームだが例えばこんなゲームもあった、ピューピューヨットレース、これは水を張った水槽にレーンを作りヨットのおもちゃを6コ浮かべ参加者が水鉄砲でアヒルを進ませゴールさせ着順を競うと言うゲーム、面白そうだが水鉄砲に水の補充で手間取りなんせ6人参加者が集まらないと始まらない・・・なんと言う効率の悪さだ、ちょっと失敗?。食品ではないなり、おにぎり、フランクフルト、肉まん、ホットドッグ、揚げ竹輪、ヤキソバ、冷やしパイン、唐揚げ、枝豆これはあまり人気が無く最後はつかみ取りまでやっていた。まだまだ書き足りないことは有るが最後に、おくんち事業と言うものは最初にも書いたように「長崎の伝統あるおくんちを側面から、長崎青年協会ならではの手法で支援するために、おくんちを通して地域の方とふれあい、今の子供たちに昔自分たちが楽しみにしていたくんちを少しでも味わわせたい、そして安心して遊べる場所を提供する。」これが基本である。今年もいよいよ、おくんちが近付いて来たが全会員同じ意識のもとで「長崎くんちを盛り上げよう。」